

アデムパス®錠の服用方法

1日3回、決められた量の薬を、水またはぬるま湯と一緒に服用してください。

●薬の飲み始め

少ない量から飲みはじめ、徐々に薬の量を増やしていきます。(最高1回2.5mgまで)

数週間かけ、患者さんの症状を確認しながら、

最も適した1回に飲む薬の量を決定します。

この段階的な服用方法は、個々の患者さんにおいて、

最大限の効果が期待される用量を

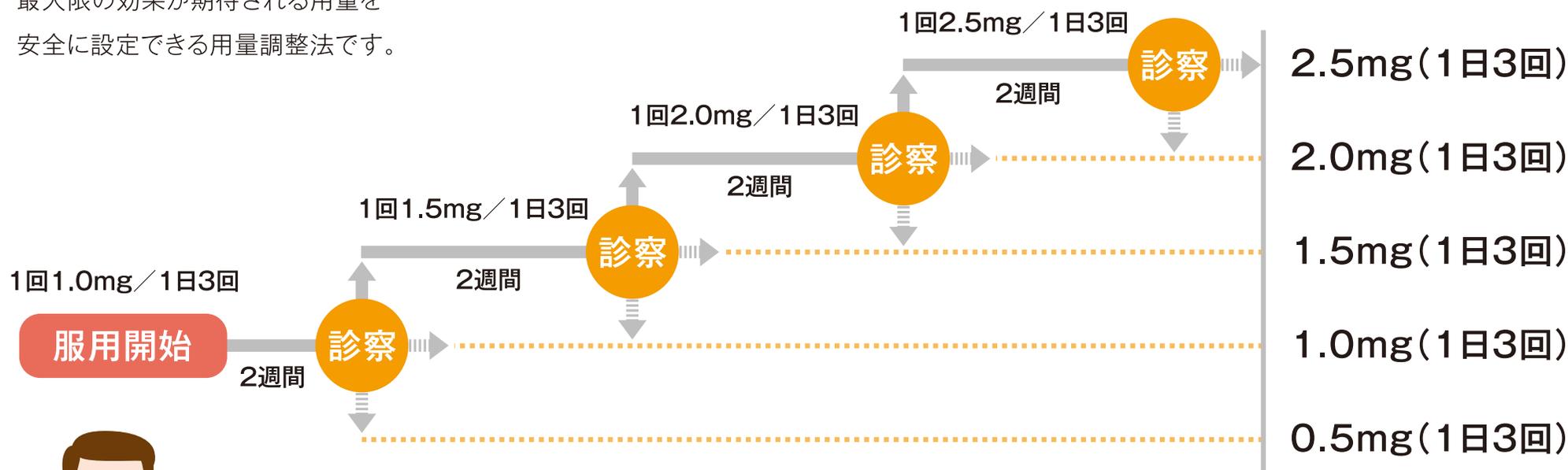
安全に設定できる用量調整法です。

収縮期血圧が

95mmHg以上+低血圧症状なし: 1回に飲む薬の用量を0.5mgずつ増量

95mmHg未満+低血圧症状なし: 用量変更なし

95mmHg未満+低血圧症状あり: 1回に飲む薬の用量を0.5mgずつ減量



薬の飲み始めの時期は、**受診毎に家庭での血圧の変化、体調の変化**をお知らせください。
頭痛、めまいなどの低血圧症状がみられましたら薬の用量を減らすことがあります。
軽い症状であっても必ず医師にお伝えください。

アデムパス®錠の種類



アデムパス®錠の副作用として 以下のような症状が出ることがあります

- ・頭痛
- ・めまい
- ・吐き気
- ・貧血
- ・消化不良
- ・低血圧
- ・下痢
- ・ほてり

まれに咳と共に、口から血を吐いたり、
血の混じった痰が出ることがあります。

ただちに服用を中止して担当の医師に連絡してください。

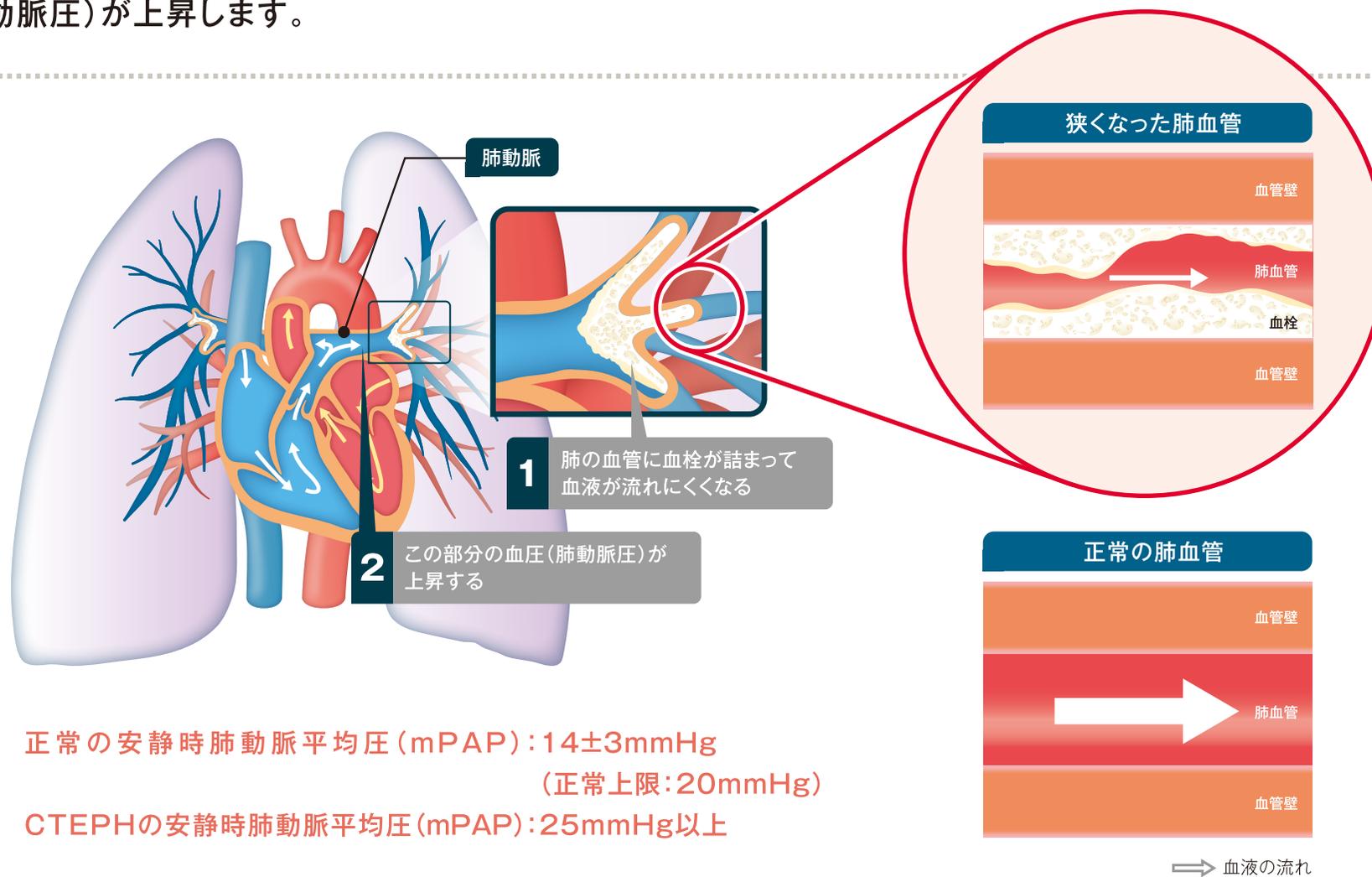
低血圧症状とは・・・



上記の症状は一例です

慢性血栓塞栓性肺高血圧症 (CTEPH) ってどんな病気?

肺高血圧症の中でも、血栓(器質化血栓)が肺の血管を塞いだ状態がしばらく続いて、肺高血圧症が起こるものを慢性血栓塞栓性肺高血圧症(CTEPH)と呼びます。肺高血圧症では、心臓から肺へ血液を送る血管(肺動脈)に負担がかかるため、圧(肺動脈圧)が上昇します。



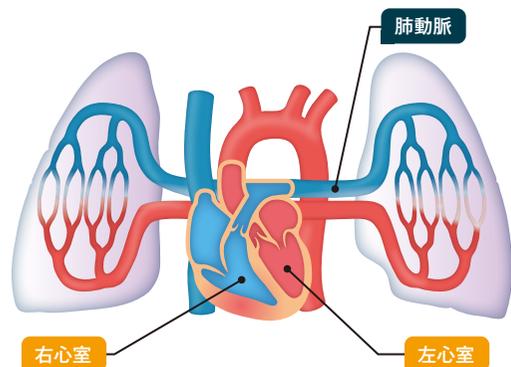
正常の安静時肺動脈平均圧(mPAP): 14 ± 3 mmHg
(正常上限: 20 mmHg)

CTEPHの安静時肺動脈平均圧(mPAP): 25 mmHg以上

CTEPHの進行とそれに伴う症状

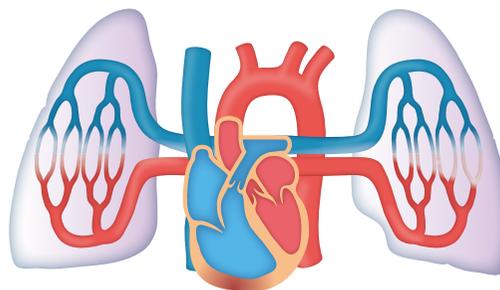
CTEPHは特別な自覚症状はありません。

病気の進行に伴い酸素不足、血液不足によるさまざまな症状があらわれます。



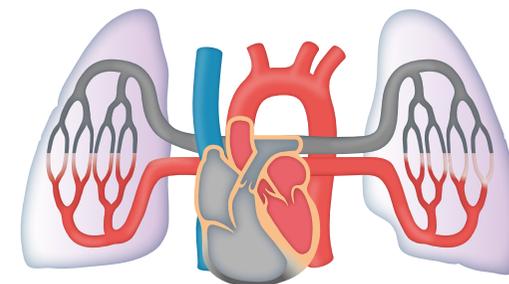
肺動脈圧の上昇

- 安静時症状なし
- 労作時の息切れ・息苦しさ
- 突然の呼吸困難
- 胸の痛み



右心拡大

- 息切れや息苦しさが徐々に強くなる
- せき
- 失神
- 肺から出血すると血痰や発熱



右心不全

- 脚のむくみ
- 体重増加
- 腹水など



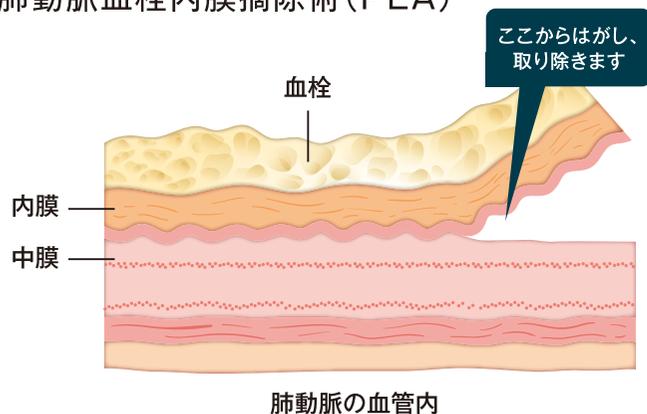
※全ての症状が必ずみられるわけではありません

CTEPHの治療法

CTEPHの治療には、手術による外科治療やカテーテル治療、薬物療法などによる内科治療があります。
血栓のできた場所や、病気の進行具合など、患者さんの状態によって治療方法が異なります。

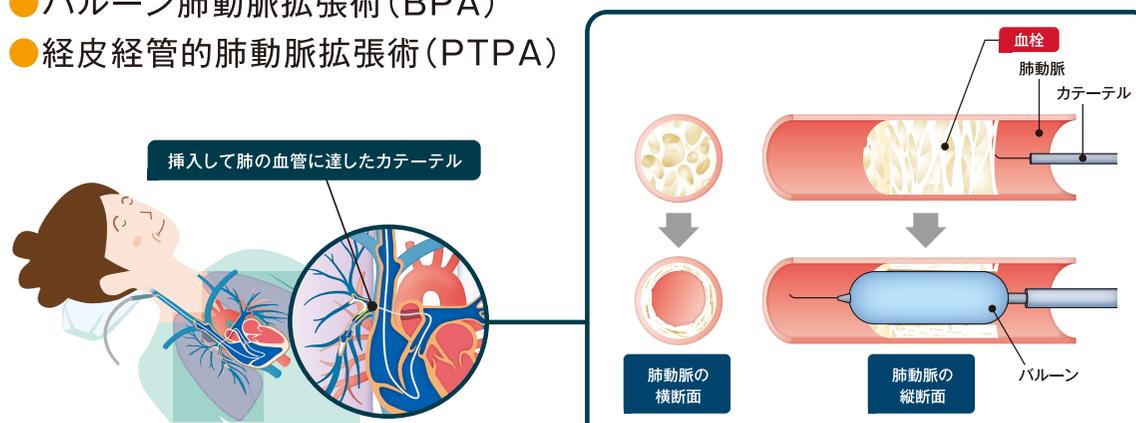
外科治療(手術)

●肺動脈血栓内膜摘除術(PEA)



カテーテル治療

- バルーン肺動脈拡張術(BPA)
- 経皮経管的肺動脈拡張術(PTPA)



内科治療

●薬物療法

薬の種類	作用
抗凝固薬	血液を固まりにくくし、血栓を予防する
肺血管拡張薬	肺動脈を広げ、血管の圧を下げて、肺と心臓の負担を減らす
心不全治療薬	尿量を増やして血液量を減らすことで、心臓の負担を軽くする(利尿薬)
	心臓の収縮力を高める(強心薬)

●酸素療法

在宅酸素療法
(HOT:home oxygen therapy)



CTEPHの治療アルゴリズム (推奨クラス, エビデンスレベル)

